

お役だちマニュアル
もしものとき
は菩提寺へ

～檀信徒のみなさまへ～



我が家の
菩提寺

曹洞宗

私達に

もしもの事があったら
どうしたらよいのでしょうか？





故郷を離れ都会での生活も長くなりました。

80歳を過ぎて、もしものとき、どうしたらよいのか？と考えるようになりました。

故郷の親戚や縁者は少なくなってきましたし、どう対処すればいいのか？わかりません。故郷には菩提寺も、お墓もあるのですが…。



まず、お寺と相談を。

故郷から遠く離れてしまいますと、なかなかお寺とも行き来が難しくなっていくものです。お墓参りや法要などに行きたいと考えても、思うようにならないものでしょう。ご家族にしても同様なのではないのでしょうか。世代が子どもや孫へと移っていくと、さらに故郷やお寺とのつながりも薄くなってしまいかもしれません。

以前であれば、近くの親戚や近隣の方に気軽に相談していたかと思いますが、そうしたつながりも時代と共に変わりつつあるようです。とくに葬儀や法事については、目に触れる機会も減り、また当事者として関わることも少ないですから、事に当たってどうすればよいか？困ってしまう事が多いようです。

できる範囲で事前の用意や、家族のなかで話し合いをしておきましょう。

まずは、菩提寺の住職と事前に相談されることをお勧めいたします。きっとよいアドバイスをくださるでしょうし、慌てないための心の準備ができると思います。

Q

両親も年老いてきました。
いろいろなことを引き継がなければいけないのですが…

もしものときが心配なのですが、今までは宗教には特に関心もなく、仏事や菩提寺との付き合いも両親に任せていました。もし急に親が居なくなってしまった場合、どのようにしたらよいのかまったくわかりません。故郷にはお寺もお墓もあるのですが…。

A

まずは菩提寺の住職に相談を。

ふだんの交流が薄くなっていても遠慮なく、率直に現在の心配事を相談してみてください。住職はいつでも相談を受けてくださるでしょう。それが先祖代々続いてきたお檀家さまと菩提寺の関係です。



もしものとき… 大切な人を亡くしてしまった！ どうしよう

こうなる前に知っておきたいこと

葬儀の意味 葬儀のかたち
葬儀社の選び方
お墓に入るルール
お墓の管理のルール

誰に聞けばいいのだろう？



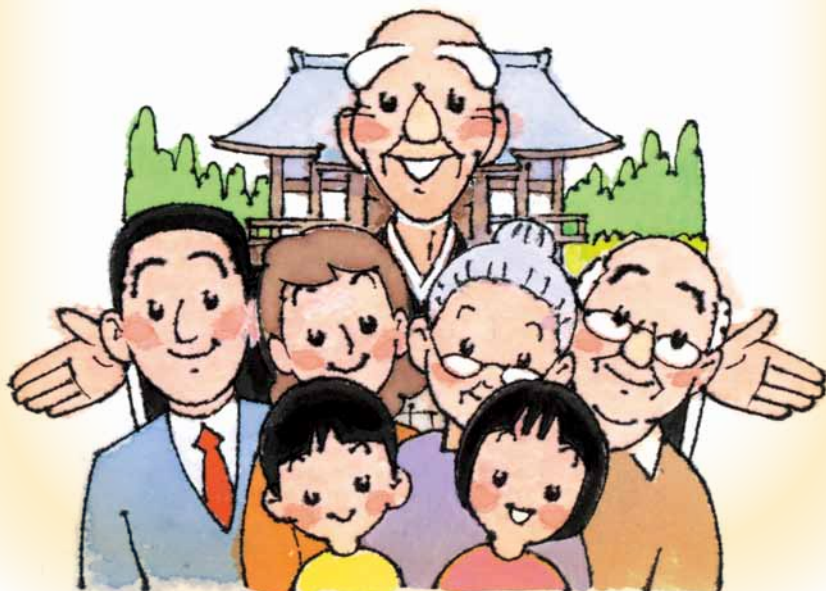
困ったときには…

菩提寺に相談

してみましよう

菩提寺はお檀家さま（檀信徒）であるあなたを、先祖の代からずっと見守り続けています。

大切なお檀家さまを
菩提寺は守ります。



Q 葬儀ってどんな意味がありますか？

A 葬儀はお釈迦さまの弟子となり、仏さまになるための仏道入門の儀式です。

生前に仏さまの弟子になることが本来のかたちですが、日本では古くから、亡くなったときに葬儀を通して仏さまの弟子にしてきました。故人さまにとってはあの世へ旅立つための儀式でもあり、また見送る家族や知人にとっては、故人さまと最後のお別れをする大切な時間でもあります。

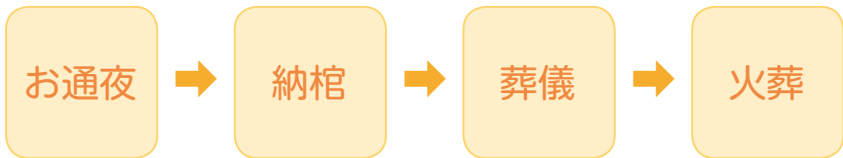
Q 葬儀会社を選ぶポイントは何ですか？

A 前もって説明会や見積もりをしてくれる業者はトラブルが少ないようです。事前に相談をすることにより、「良心的な業者」かどうか、見えてくるでしょう。いつかは来る別れのときです。いざというときに慌てないように、今のうちに調べておくことをお勧めします。

Q よく聞く葬儀・家族葬・直葬とはどのような葬儀でしょうか？

A 葬儀は、先に述べたお釈迦さまの弟子になる儀式を中心とし、故人さまとのお別れ、お見送りをする儀式です。お通夜で故人さまと最後の夜を過ごし、納棺のうかん（故人さまの身体を清め、遺品と共にお棺にお納めする）・葬儀（仏さまのお弟子になる儀式）・火葬（故人さまを荼毘だびに付す）を通して、故人さまとお別れします。

仏さまの弟子になるためには、菩提寺の住職による、入門の儀式が必要です。このときに仏さまの弟子となった証である戒名を授かります。



※地域により順番が前後する場合がございます。

家族葬は、菩提寺住職と家族近親者のみで行う小規模な葬儀です。家族近親者以外は故人さまにお別れすることができません。できるだけ生前にご縁のあったみなさまとともにお別れし、お見送りできることが望めます。

直葬ちよくそうは、儀式を何も行わず病院から、火葬場へ直行する方法です。決して、葬儀ではありません。

葬儀社と接するときの心構え

- ・葬儀社の言うことを鵜呑みにしないようにしましょう。
- ・まず、きちんと菩提寺があることを伝えましょう。
- ・亡くなった方の葬儀を営むのはあくまで喪主です。喪主を実務的補助するのが、葬儀社と肝に銘じましょう。
- ・自分たちの都合をおしつけてくる業者には要注意！
言いなりの葬儀では後々悔いが残ることもあります。
- ・「僧侶を手配します」とさかんにすすめてくる葬儀社には、菩提寺の住職にお願いしていることを伝えましょう。
- ・費用がかかると言ってお勧めプランばかり話してくる業者には要注意！ いろいろと追加していくことで、気がつけば費用が重なって高額になっていることもあります。よく確認して決めましょう。
- ・複数の葬儀社や知人などの経験談なども参考にしましょう。



『お墓に入るルール』

Q

お墓にはお骨を持っていけば、入れますか(納骨できますか)?

A

菩提寺住職による葬儀をすませ、お戒名を授かっていれば、問題なく入れます。なぜなら、菩提寺の住職が故人さまを仏さまの弟子として導き、お墓に眠るご先祖さまの仲間として迎え入れたからです。なお、お墓がある墓地が共同墓地や霊園などであるならば、所定の手続きで納骨はできます。しかし一周忌、三回忌などその後の供養も考えて、はじめから菩提寺住職に相談することが望ましいでしょう。場合によっては、再度葬儀を行う場合があります。

『お墓の管理のルール』

Q

墓地を購入しました。この土地は、永遠に私のものになりますか?

A

墓地の多くは永代にわたり使用权を認められたもので、土地は個人の所有地ではありません。菩提寺の墓地や霊園、行政自治体が管理運営する霊園、宗教法人名義で

業者が管理運営する霊園は、この使用权が認められた墓地と言えます。使用权が認められた墓地は、管理者の定める利用規則を守らなければなりません。規則の基本は、

- ①連絡先を明確にすること
- ②管理費等をおさめること
- ③お寺が所有し管理する墓地ならば、墓地を管理するお寺のお檀家さまであること、などです。

※使用权はお墓を継承する人が、相続することができます。

※それぞれの利用規則を確認しておきましょう。



あなたの家のお墓の場所

でも、どうして、 菩提寺に相談するの？



さまざまな葬儀の姿を知っています。

ご遺族にははじめてのことでも、何代にもわたってお檀家さまと接している菩提寺はいろいろな方の葬儀を執り行っています。そのため、葬儀に関する経験と情報が豊富です。

- ・ 葬儀の意味を知りたい
- ・ 良心的な葬儀社を知りたい
- ・ 葬儀の費用の妥当性を相談したい
- ・ 納骨までの段取りを知りたい

そういった疑問に答えることができます。



ご先祖さまを守り、供養をするのが

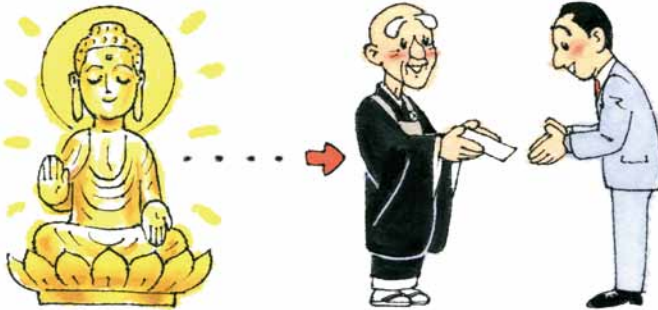
菩提寺の役割の一つだからです。

菩提寺は葬儀をし、納骨をするだけの場所ではなく、それから長い間、ご遺族のみなさまと一緒に供養をしていく場所でもあります。何代にもわたって菩提寺との関係は続いていきますので、お墓をともに守っていくための連携は欠かせません。



お戒名は菩提寺住職より授かる

のが原則です。



お釈迦さまの教えが弟子に伝えられ、住職に伝わっています。私たちは、その教えを住職の弟子になることによって、受け継ぐことができるのです。戒名は、その教えを受けて、仏弟子として新たに歩みはじめるにあたり、授けられるお名前です。

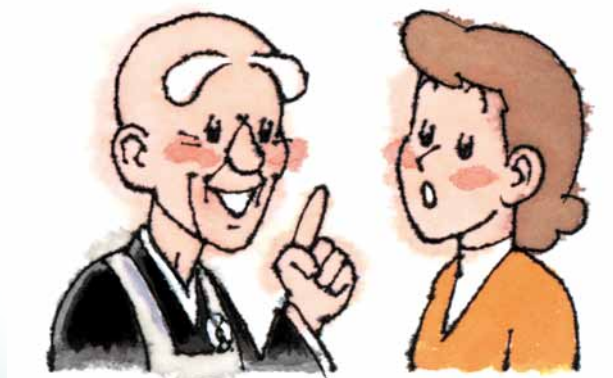
普段は疎遠でも大丈夫。

どんなに離れていても菩提寺はお檀家さまを見守っております。

気になること、

知っておきたいこと、

ぜひ率直にご相談ください。



よくある



Q 菩提寺に連絡せずに、葬儀を済ませてしまいました。

母が亡くなり、葬儀社から紹介されたお坊さんに戒名を付けてもらいました。菩提寺の墓地へ納骨しようと連絡をしたら、住職から「長いお付き合いのお母さまのご逝去をお知らせいただけなかったのは、大変残念です。納骨については、お越しのときによく相談しましょう」と言われました。私は何か間違ったことをしているのでしょうか？

A 葬儀は菩提寺の住職が行い、その中でお戒名を授かることが仏さまの弟子として認められる証の一つです。また、先祖代々のご供養や墓地の管理も菩提寺が行っておりますので、まったく連絡せず、いきなり納骨してほしいと連絡が入れば住職も驚きます。連絡が遅れてしまったことは仕方がないことですので、今後のことについて住職とよく相談をしましょう。場合によっては再度葬儀を行い、お戒名を授けてもらう必要があります。

Q

お戒名は自分で付けて良いものですか？

A

戒名は仏さまの弟子となったときに、その証として住職から授けられる名前です。自分で好きな名を付けるものではありません。



Q

お墓の利用法について詳しく教えてください。

A

墓地や霊園は、おおむね、次の4種類に分けられます。

- ①地区や住まいの近くにある古くからの墓地
- ②寺院の境内にある墓地・霊園
- ③地方自治体の管理運営する霊園
- ④宗教法人名義を使用し、業者が管理・運営する霊園

①の場合は、すでに土地所有権をお持ちなので、

ご自身所有の墓地ということになり、管理もご自身で行います。(共有墓地の場合は、異なることがあります。)

②～④の場合は、使用者が、管理者から墓地の永代使用权を認められた墓地になります。利用法については、それぞれの墓地・霊園の規則に従うことになります。

Q

お墓にはどのような種類がありますか？

A

次のようなものが一般的です。

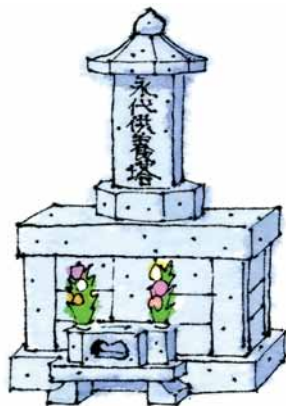
- ①一家先祖代々のお墓 (〇〇家之墓など)
- ②個人墓や夫婦墓 (一人や夫婦のみで入る墓)
- ③永代供養墓 (さまざまな人と共に入のお墓)



一家先祖代々のお墓
(〇〇家之墓など)



個人墓や夫婦墓



永代供養墓

Q

先日、市営の霊園に行ったとき、墓地に看板が立てられ、「管理事務所に連絡するように」と書かれたお墓を見つけました。これは？

A

墓地の使用に当たっては、管理者の定めた利用規則を守る必要があります。長い間お参りされた様子がなく、さらに使用者が音信不通の場合、一定期間の公示期間を過ぎて、それでもなお、連絡がないときには、墓石の撤去と遺骨の合祀ごうしがされることがあります。そうならないためにも、命日、お盆、お彼岸などの定期的なお参りをこころがけましょう。

Q

費用も時間もありません。直葬してもいいのでしょうか？

A

直葬は葬儀ではありません。 遺体を火葬するだけですので、これを葬儀と呼ぶことはできません。葬儀を行うということは、故人があの世界へ旅立つための儀式です。費用も時間もかかりますが、改めて親族とともに行っていただくことをおすすめ致します。経済的な負担が軽くなるよう、菩提寺や葬儀会社とよく相談をし、故人さまとのお別れの方法について、よく検討しましょう。

最後に……。

- 葬儀は単なる儀礼ではなく、故人さまが仏さまの弟子となり、成仏への道を進むための仏教入門の儀式です。
- 葬儀は家族・親戚・友人・ご縁があった人すべてが、故人さまと最後のお別れをする大切な場所であり、時間であります。

もしものときに備えて……。

- 菩提寺の連絡先を確認しておきましょう。
- 菩提寺住職ともしものときについて、話をしてみましょう。

もしものときが来たら……。

- **まず、菩提寺に一報を。**
- 住職と葬儀の日程や進め方について打ち合わせを。



もしもの
ときに
連絡する人

Blank area for listing contact persons.

お願いする
場合の
葬儀社

Blank area for listing funeral homes.